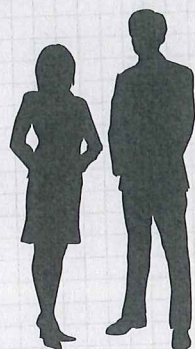


翻訳

世界のいま



Interviewee

(株)ジェスコポレーション
代表取締役
丸山 均さん

文系出身者でも 技術翻訳者を目指す

IT、エネルギー、医薬など、ソフトウェア産業や工業技術に関する文章を扱う技術翻訳。各分野の専門知識が必要とされるため、多くの文系出身者は、技術翻訳者になることなど考えもしないだろう。しかし、技術翻訳界のパイオニア的存在として知られるジェスコポレーション代表取締役の丸山均さんは次のように語る。

「実感としては、6〜7割が文系出身者であり、素晴らしい仕事をしています。理論的思考ができる人であれば、各分野について学び、技術翻訳者を目指すことは十分可能です」

技術翻訳というジャンルも選択肢に加える価値は存分にある。

日本人の英語力アップにより変化していくニーズ

技術翻訳界における動向として顕著なものを挙げてもらった。

「最近、英語のネイティブチェックを専門とする外資系翻訳会社の需要が急増していると聞いています。その背景には、日本人の英語レベル向上があります。技術者、学者、医師は英語の論文を執筆することはできるようになった。とはいえ、最終チェックはやはりネイティブに頼みたい、ということではないかと考えています」

ある程度読める、書けるというクライアントが増えてきたなか、技術翻訳界も変化しつつある。

「今後需要が見込まれるのは、まずグランドスクリーニング。翻訳は、何も付け加えず、何も削らないことが大原則でしたが、原文から離れたも、クライアントが求める情報をプラスします。例えば、Aという市場のレポートを訳すとき、翻訳者自身が知るマーケティング情報を付け加えるんです。情報が最新かつ正確で、クライアントの知識レベルに合ったものであれば、通常の翻訳以上に有益になり得る。これからはこのような付加価値が求められる時代になるでしょう」

さらに、機械翻訳を使う企業が

増えてきたことから、事前に機械が理解しやすいように文章を整えるプレディット、機械が訳した文章をより読みやすく変えるポストエディットの依頼が増えていくことも予想されるという。

アジア、環境、知的財産 注目したいキーワード

英語翻訳からスタートしたジェスコポレーションだが、ここ15年ほどでアジア言語のニーズが急速に増え、現在、受注の4割を占める。

「中国語、次いで韓国語、ベトナム語。最近ではインドネシア語やタイ語の依頼が増えています。これまでは、私が現地の翻訳会社に直接アプローチしていましたが、円安やアジアの物件費高騰もあり、日本人翻訳者の需要が伸びる可能性が高い」

さらに注目すべきキーワードとして医薬、エネルギー、知的財産を挙げる。

「高齢化社会を踏まえ、医薬のニーズは今後、減少することはないでしょう。自然エネルギーや原子力発電、リサイクルシステムの分野も伸びますね。さらに日本が長い間培ってきた知的財産を保護していこうという動きも目立っていますから、このあたりの専門知識を持つ技術翻訳者は優遇されると思います」

日々動いていく世界の動向に対応するため、技術翻訳者には言語力プラス調査能力が必須。アンテナを

張り、新しい分野については、これまで蓄積した知識とリンクさせる力が求められる。そして同じくらい大切なのはビジネスマナーだ。

「納期を厳守し、翻訳に付随する決まり事を正確に実行する、という日々の行為が、翻訳者としての評価に大きく関わってきます。また、技術文書にとって重要な意味を持つ数値・記号を納品前に必ずチェックするという習慣をつけることも大事です。高い翻訳能力を持つ誠実な技術翻訳者は、いつの時代も引く手あまたです」

Close up!

技術向上と出会いにつながる2つのイベント

日本翻訳者協会(JAT)が主催する「プロジェクト京都2015」が、10月3日に開かれる。「匠の技を磨く」をテーマに、ワークショップと対話型セッションで実践的な内容を習得できる。11月26日には「JTF(日本翻訳連盟)翻訳祭」が東京で開催される。有識者、各界著名人を招いた講演、パネルディスカッションで、「今求められる翻訳者像」を実感しよう。いずれも交流パーティがあり、翻訳者同士のつながりが生まれるだけでなく、ソースクライアント、翻訳会社関係者との貴重な出会いの場にもなるだろう。